

みどりの 林東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol.
209
東北森林管理局



「初夏の世界谷地と栗駒山」 [提供: 宮城北部森林管理署]

特集

森林病虫獣害対策の取組
(ナラ枯れ対策・ニホンジカ対策) [保全課]

CONTENTS

- 美しい森林づくり
地元地域住民による森林環境教育活動と地域と連携した活動
..... [山形森林管理署最上支署]
- 我が署の名所
色彩といで湯の栗駒山 [宮城北部森林管理署管内]



特集



森林病虫獣害対策の取組

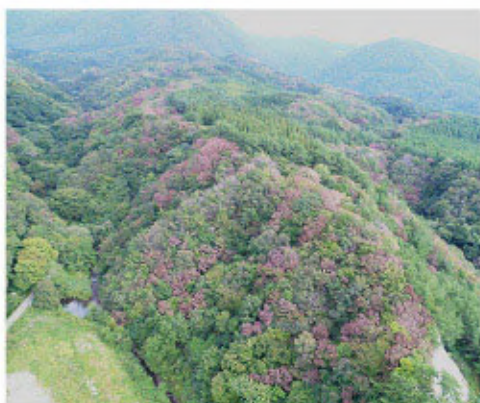
(ナラ枯れ対策・ニホンジカ対策)

保全課

1 ナラ枯れ対策への新たな取組

東北森林管理局管内における令和2年度のナラ枯れ被害は対前年比31.2%(本数)となっており、秋田県の南部内陸・北部沿岸、青森県の西海岸における被害の増加が顕著となっています。

青森県においては、白神山地世界遺産地域の緩衝地域内に



ナラ枯れ被害箇所

においても昨年初めて被害木が見つかると被害が拡大しており、被害の最北端も青森県中泊町まで達している状況にあります。

こうした中、津軽森林管理署では今年度から青森県と連携し、青森県深浦町の被害発生中期以降エリア(被害木10本/ha以上の箇所)において、おとり丸太

による誘引捕殺を行っています。おとり丸太は伐倒玉切りした健全なミズナラ(1箇所当たり約20m)を集積の上、合成フェロモンを設置し、カシノナガキクイムシを大量に誘引した後、破碎・焼却等により殺虫する方法で、山形大学農学部客員教授の齊藤先生の指導を受けながら、青森県が民有地に10箇所、津軽森林管理署が国有林に12箇所設置しています。

誘引捕殺に係る効果の検証に

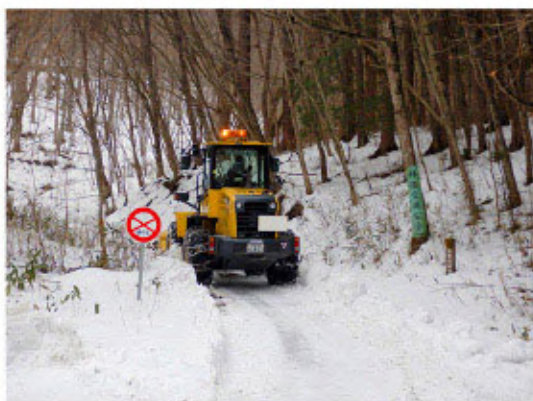


おとり丸太の設置状況

ついてはこれからとなりますが、誘引捕殺を終えたミズナラ材についても破碎処理した後、地域のバイオマスエネルギーの燃料とするなど新たな活用方法等について検討を行うことにしています。また、青森県深浦町地区において伐倒くん蒸処理を終えた被害木については、深浦町と連携し地域へ新材として販売する取組も行っていきます。

2 ニホンジカ対策

管内5県におけるニホンジカの生息状況は岩手県沿岸南部から宮城県沿岸部牡鹿半島で生息密度が高くなっており、深刻な農業被害が発生しています。その他の地域においても目撃情報が増加しており、生息域の拡大が懸念されているところです。保全課では、ニホンジカ対策

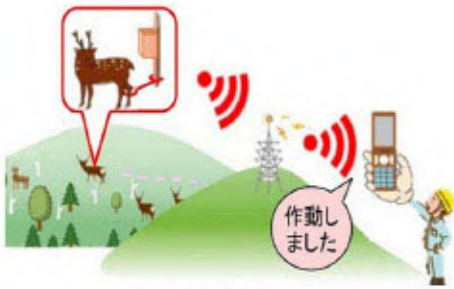


捕獲支援のための林道除雪

として、罠いワナ及びくくりワナによる誘引捕獲事業、国土保全のためのシカ捕獲事業、捕獲支援のための林道除雪、ワナの貸出し協定等による捕獲等の各種捕獲事業を行っています。

罠いワナ及びくくりワナによる誘引捕獲事業については昨年度、三陸北部署・三陸中部署・遠野支署の3署5地区で実施し30頭捕獲しています。今年度は、三陸中部・遠野の2署5地区で実施することとしており引き続き効率的な捕獲事業に努めていくことにしています。

国土保全のためのシカ捕獲事業については、早池峰山周辺に



自動通知システムのイメージ



誘引材に集まるニホンジカ

においてシカによる稀少植物への被害を防ぐため昨年度から実施しており、捕獲情報を自動的に通知するICT技術を活用した捕獲や、シカの給餌の特徴を踏まえたワナの設置など効率的な捕獲を実施することとしています。

捕獲支援のための林道除雪については平成24年から実施し、昨年度は2署14路線で行い831頭の捕獲に貢献しています。今年度も関係機関と連携を図りながら2署13路線で実施することとしています。

ワナの貸出し協定等については平成30年度から関係市町・地

区猟友会の協力を得ながら協定を締結し、くくりワナや罠いワナの貸出しを行っています。昨年度は

新たに3地区で協定を締結し三陸北部署・久慈支署・三陸中部署・遠野支署・宮城北部署の5署8地区でワナの貸出しを行い255頭の捕獲に繋がっています。

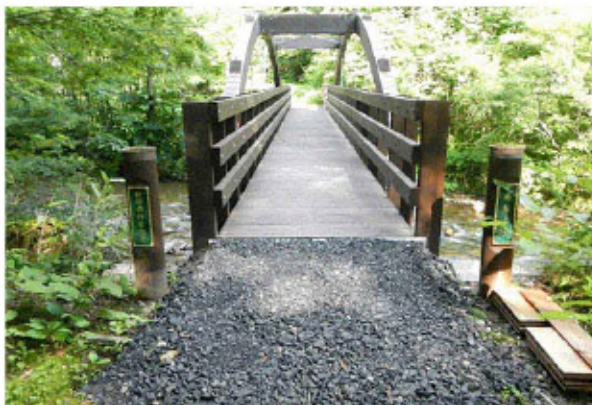
こうした取組により、昨年度の捕獲頭数は初めて千頭の大台を超える1,511頭(うち岩手県内の捕獲頭数1,505頭)を捕獲することができました。しかしながら岩手県全体の捕獲頭数からすれば10%程度にしかありませんが、今後とも関係機関と連携を図りながら被害の拡大防止に向け取り組んでいきたいと考えています。

日本美しいの森 お薦め国有林 ○「美しい森」施設のリニューアル

仁別自然休養林の木製歩道「めおと橋」については、レク施設の散策、夫婦杉や太平山の登山道へのアクセス路として利用されてきたところですが、平成6年に架設されて以来、26年を経過し、アーチリブ支

部における部材の腐朽や主要部分の亀裂、欄干の変形等、経年劣化も見られたことから、利用者の安全・安心を確保するため令和2年度において架替工事を行いました。使用した木材は、主に秋田県産の秋田スギを集成加工等したもの約13mを使用しており、橋長23mの集成材補剛桁アーチ橋となっています。

「コナ桐が終息した際には是非、リニューアルした「めおと橋」を訪れてみてはいかがでしょうか。」



リニューアルした「めおと橋」



美しい森林づくり

地元地域住民による 森林環境教育活動と 地域と連携した活動

山形森林管理署最上支署

当支署の管理する最上地方の国有林は、山形県の北東部に位置する1市4町3村の約10万7千haに及びます。

また、古くから木材産業が盛んな地域で、ここ数年では豊かな森林資源を背景に大型木材加工施設や大規模な木質バイオマス発電施設の建設が相次ぐなど、木材の需要拡大に伴い地域への安定的な林産物供給の役割も担っています。そのような、木材産業が盛んな当支署管内において、今回は地元住民の方による森林環境教育の取組と民国連携の森林整備について紹介します。

【地域活動への協力その①】

「塩根川学校の森」は、地域の児童・生徒と保護者を対象として、身近な自然体験学習を通して森林を育てながら

自然環境の大切さを学び、子供達の遊学の場所、地域住民のコミュニティの場として広く活用されることを目的として、平成16年3月に「遊々の森」を締結し以来16年間に渡り森林学習等を実施しています。



子供たちによる木工制作

また、日本一小さなトンボ「ハッチョウトンボ」(一円玉サイズ、約2cm)の生息地である荒沼湿原周辺を中心に、林内の下刈や観察歩道の整備を定期的に実施しています。令和2年10月28日には、地元地域の小学生ほか約40名が参加して、以前に植栽したミズナラ(ドングリ)の木などの成長を願いながら親子で楽しく下刈り体験を行いました。作業を行った児童達は、最初は手鎌の使い方や作業方法等のレクチャーを受けながら慎重に作業を進めていきましたが、慣れてくるとカマの扱い方も上達し、一人でも積極的に作業をこなせるようになりました。



いざ作業開始



親子で下刈体験

がら子供椅子の作成を楽しみました。このように、地元地域での自然体験活動を通して、人との思いやりや、ふるさとに対する郷土愛を育む一つのきっかけになってくれることを願って、これからも地域の森林教育活動に協力していきます。

【地域活動への協力その②】

当支署管内には、「最上峡」「山刀伐(なたぎり)」「峠」等の名所や、巨樹・巨木等の自然あふれる観光スポットがたくさんあります。

その中で、令和3年6月5日には、第27回「まぼろしの滝・与蔵の森トレッキング」が鮭川村主催で参加者を山形県内の在住者50名までとし開催されました。

また、会場となった羽根沢温泉は開湯100周年記念としてマルシェ(採れたての山菜、地元の食材や加工品等の販売)も開催され、トレッキング参加者以外にも多数の方が訪れ、会場は大いに盛り上がりました。

昨年はコロナの影響により開催されませんでした。県





美しい森林づくり

内外から毎回100名を超える参加者があり一大イベントになっております。

なお、まぼろしの滝の由来は、その昔、地元の村民が約50年前に大芦沢の奥で滝を見たと言ったが、他の村民は見ることがなかったため信じてもらえず、まぼろしの存在となっていました。

その後、その話を聞いた村の調査隊が平成5年に調査したところ、地図上に無い4つの滝が見つかったことによりまぼろしの滝とよばれるようになったようです。

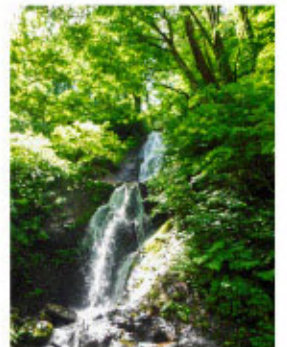
トレッキングコース内には、旧登山道の道標にもなったブナの巨木に刻まれた文字「羽根沢に至るヨソウヘ」や、ブナやナラ等の広葉樹に囲まれ、年間を通して水位の変化が無い神秘的な「与蔵沼」等



蛙川村と歩道整備



与蔵沼をバックに記念撮影



まぼろしの滝群4つの内の一つ白猿の滝

絶景スポットが多数存在しています。

蛙川村と当支署では、毎年のトレッキングにあわせて歩道の整備や、事前の安全確認等を実施するなど、参加者の安全・安心な開催に向け取り組んできました。

今回のトレッキングでは、参加者の規模を縮小して開催されましたが、「大滝」、「白猿の滝」、「夫婦滝」、「湯沢の滝」をはじめとする、「まぼろしの滝群」や「与蔵沼」、歩道周辺のブナの巨木など新緑と自然に触れ合えた一日となりましたのでは無いでしょうか。

これからも、国有林のレクリエーションの森などを活用して、地域振興対策や自然とのふれあいの機会を提供等、

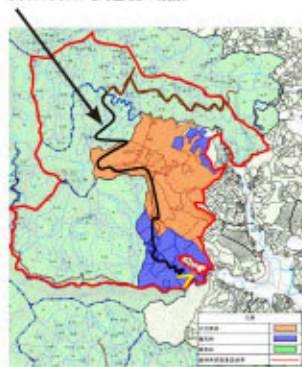
地元行政と協力しながら地域のイベントに協力していきま

【民有林と連携した森林整備】

当支署では、民有林と連携した森林整備を進めるため、真室川町、山形県林業公社、小国山備荒林生産森林組合と平成28年11月に「西小又・小国地区森林整備推進協定」を締結しております。

国有林及び隣接した民有林において、路網（林業専用道）を連結・整備することにより、共同施業団地内での主伐・間伐・造林等の森林施業を推進し、それぞれの路網を利用してこれまで搬出等が困難であった奥地の木材生産が可能となるなど、国有林・民有林ともに効率的・効果的な森林整備等の施業の実施に取り組んでおります。

新設林道予定線（黒）



森林共同施業団地区域図

これまでに、各種会議や現地検討会を通して、森林整備の目的である、森林・林業の再生や、森林の多面的機能と資源の循環利用を図るための効率的な森林施業の実施に向けて、合理的かつ低コストな路網整備が求められること、及び国有林で行っている低コスト林業等（下刈回数省略等）について事業地の視察を行うなど、施業方法について積極的に意見交換を実施しております。

なお、令和2年3月には同協定の更新を行い、現在は路網の整備に重点を置き、民有林・国有林の双方にて定期的に現地視察を行いながら、進行状況の確認等情報の共有を図り、施業を実施しています。

なお、完成後は循環利用が可能なため、森林整備の効率化や、木材の協出に組み込みます。



西小又新設工事



木登り上手な ツタ(蔦)は甘い

津軽森林管理署金木支署 奈良 真吾

夏の全国高校野球大会が開催される甲子園球場の外壁を覆う植物にツタがあります。20年前に甲子園球場を訪れた際に、ツタで覆われた外壁は非常に印象的でした。ツタの葉が外壁を覆っていることで、直射日光を遮り、暑さを軽減する効果があります。また、見ているだけでも涼しげに感じさせてくれます。いったいツタはどのようにして生長し外壁を覆っているのでしょうか。

ブドウ科ツタ属のつる性の落葉性木本であるツタは、他の植物などを伝って(つたって)生長することからその名がつけられました。自身で自重を支えることができないので、他の植物などに付着するために吸盤を持った巻きひげを備えています①。直径1~2ミリの円形の吸盤を付着させると②③、次々に吸盤を付着させながら茎を伸ばしていきます。木の幹を伝って登り④、電柱も難なく登っていきます⑤。複雑な構造をした金属製の柵もよじ登っていきます⑥。生命力が旺盛で、街中でも様々

な人工物によじ登っているツタを見ることができま
すので、是非観察してみてください。

また、ツタは別名をアマツラといい、ツタの樹液
を煮詰めてできる甘いシロップ「あまづら」に由来
しているといわれています。海外から砂糖が少し
ずつ入ってくるようになった室町時代までは、貴重
な甘味料として利用されてきたようです。平安時代
には、貴族たちが当時貴重で高級品だったかき氷
に「あまづら」をかけて食べたという記録が残って
います。「あまづらかき氷」、いったいどのような味
だったのか想像が膨らみます。

日本人にとって、ツタは生命力の象徴であり縁起
の良い植物であったため、家紋のデザインや着物
の柄に使われるなど生活の中に取り入れられてき
ました。きっと昔の人にとって、ツタはとても身近に
感じることができる植物だったのではないでしょ
うか。



①巻きひげを伸ばし付着する準備



②コンクリートに付着する吸盤



③金属製の柵に付着する吸盤



④スギの幹を登るツタ



⑤電柱をよじ登って



⑥複雑な柵も



青森森林管理署

「青森県市町村職員林務基礎研修会」の現地研修が開催されました

令和3年7月9日（金）に青森県青森市内の国有林で、青森県の主催による「青森県市町村職員林務基礎研修会」の現地研修が開催されました。

この研修会は、青森県内の市町村における林政業務の円滑な実施を推進するため、令和3年7月7日から9日にかけて、市町村の林務担当者を対象として行われたものです。7日と8日には座学で林政業務に関する基礎知識を習得し、9日に当署職員11名が講師として参加、青森県森林組合連合会にもご協力いただき、実際の林業の現場での作業を体験・見学しました。

現地研修では最初に、森林調査（収権調査）を実施しました。森林

調査とは、木の直径や高さ、本数などを調べることで、その森林にどのくらいの材積の木があるかを知ることが出来ます。

調査の前に当署の職員が、調査箇所の状況や調査方法について説明した後、参加者数名で機械を用いて樹高を測る体験をし、その後5つの班に分かれ、森林調査を実施しました。次に木材生産現場に移動し、青森県森林組合連合会の協力のもと、作業道の作設や立木の伐倒、高性能林業機械を用いた造材・集材作業など木材生産の一連の流れを見学いただきました。

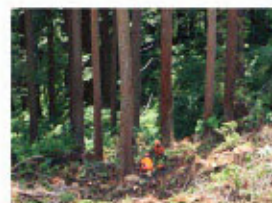
立木をチェーンソーで伐倒し、プロセッサで枝払いや玉切りを行い、フォワーダで集材を行うという実際の作業を見ることで、林業の流れをより理解することができました。



森林調査



樹高調査



チェーンソーによる伐倒



プロセッサによる造材作業

その後、当署の職員が再造林の必要性について、森林サイクルのパンネルを用いて説明し、森林サイクルが繰り返されることによって住みやすい環境や森林資源を持続的に得られることなどを、伐採した跡地を目前にして聞き、再造林の必要性について理解を深めました。



再造林の説明

最後に、当署が業務で使用しているドローンのデモフライトを実施しました。ドローンは、伐採作業の進捗状況の確認や、災害発生時の被災状況の把握などに活用しており、列状間伐を撮影した写真を用いて、ドローンの活用方法と列状間伐の取組事例についても説明を行いました。

青森森林管理署では、市町村の林務担当者に対し、実際の作業現場の見学や体験を通して、森林や林業の

知識を習得する研修等に今後も協力していきます。

中学生が林業の職場体験学習を行いました

令和3年7月1日（木）に、青森県東津軽郡外ヶ浜町近辺の国有林内で、外ヶ浜町立蟹田中学校の1年生7人を対象に、ヒバ苗木の植樹体験、立木伐採現場の見学などの職場体験学習を行いました。

現場での体験に先立って、蟹田中学校の体育館で森林教室を行いました。青森森林管理署の職員がプロジェクターや紙芝居を用いて、森林の働きや林業の流れについて説明をすると、生徒はメモをとりながら熱心に聞き、「年間どれくらいの木を伐採するのか」、「働く中で一番大切にしていることとは何か」などの質問をしていました。



森林教室

森林教室の後は外ヶ浜町内の国有林に移動し、ヒバ苗木の植樹作業を行いました。

生徒たちは、昨年に国有林内で、専用の道具で穴を開けて踏みつけるだけで植樹ができる「ヒバコンテナ苗の植樹」を経験しており、当時は簡単に驚いたと言っていました。今回植えた苗木はヒバの「裸苗」で、唐鎌を用いて大きさ40cm四方、深さ30cmの穴を掘る必要があるため、慣れない作業に生徒たちは苦戦していました。



植樹作業

一通り苗木を植えた後、近くの切り株を使って年輪を数えました。生徒が数えたところ67本で、今日植えた苗木もこのくらい大きくなるのに60年以上かかることを伝えると、生徒たちは驚いていました。

その後、業務で使用しているドローンを用いて、植えた苗木と一



年輪を数える生徒

緒に記念撮影をし、午前9時が終了となりました。

午後は立木伐採現場へ移動し、地元の前田林業の協力のもと、チェーンソーによる伐倒作業や、高性能林業機械を用いた造材・集材作業を見学しました。その後、生徒たちは実際にグラブブルやプロセッサなどの高性能林業機械の操作体験をし、口々に「操作が難しかった」と感想を言っていました。



造材作業の見学



高性能林業機械の説明

最後に、生徒たちは「一番難しい仕事は何か」、「高性能林業機械に慣れるのにどれくらいかかるのか」など質問をし、お礼を述べて職場体験学習が終了しました。

青森森林管理署では、地元の子供たちが森林や林業について知り、体験できる機会を提供する活動に今後も協力していきます。



高性能林業機械の操作体験

森林技術・支援センターと 中里森林事務所 合同新庁舎が完成しました。

令和2年3月から進めていた新庁舎が完成し、令和3年6月29日に関係者を招いて完成披露式を開催しました。



完成披露式の様子

当センターは、平成7年3月の一般会計化に伴い青森営林局森林技術センターとして発足し、平成25年に森林技術・支援センターに組織再編されました。これまでは昭和36年に建てられた旧中里営林署庁舎を使用していました。老朽化したためこのたび中里森林事務所と合同の庁舎を新築したものです。

今回新築された庁舎は、津軽地方の建物の特徴でもある深い軒や棟木であったり、通し柱や腰板はヒバ、ホール正面と階段はCLTを採用するなど、地元になじみながらも新たな技術も使われれています。



完成した新庁舎

森林技術・支援センターが発足して25年が経過しました。当セン

ターの技術開発課題も当初はヒバ林に関する課題が多かったものの、時代とともに変化して、現在では民有林支援に貢献するような低コスト化に関する課題が多くなってきました。今後とも技術開発のみならず地元の方との交流も深めていきたいと考えておりますので、近くにおいでの際は気軽に立ち寄り下さい。



1階ホール

新任者略歴紹介 令和3年7月1日付け

津軽森林管理署長



ともかず さとう
佐藤 智一
(山形県)

平成9.4 林野庁木材流通課
平成23.5 上小阿仁支署長
平成29.9 林野庁木材利用課課長補佐
(企画調整班担当)
令和元.9 林野庁治山課課長補佐
(保安林管理班担当)

青森森林管理署長



たくや むらかみ
村上 卓也
(東京都)

平成5.4 林野庁研究普及課
平成29.8 農村振興局設計課
入札契約技術企画課
令和元.10 林野庁業務課
令和2.12 津軽森林管理署長



りんご畑と地域の森林

津軽森林管理署 森林官補 遠藤 修平



弘前市りんご公園から岩木山方面の眺望

私の勤務する相馬森林事務所は、青森県弘前市の市街地から車で20分程走った相馬地区（旧相馬村）にあります。当事務所は弘前市の南側、秋田県境沿いの約7,700haの国有林を管轄しています。

私は今年度4月に当事務所に着任し、初めての森林官業務と飛び交う津軽弁に苦戦しつつも充実した日々を過ごしております。

さて、弘前市といえば、弘前城の桜や津軽富士こと岩木山、ねぶた祭り等が有名です。

また、りんごの生産量は日本一を誇り、いたる所にりんご畑が広がっています。相馬地区でもりんごの生産は盛んで、「飛馬りんご」と呼ばれる高品質なブランドりんごを生産しています。

相馬地区には岩木山に面した丘陵地等が多いため、現場への移動中等ふとした瞬間に、季節や時間によって様々に変化する岩木山とりんご畑の美しい風景を堪能できます。

津軽森林管理署管内の国有林は、かつて津軽藩の直轄領として、組織的に管理・経営されてきました。

特に、当事務所管内と両隣の大鰐・砂子瀬森林事務所管内等では、1600年代には尾太鉦山をはじめとする鉦山で銀等の採掘が行われており、ここでは製錬のための燃料や坑道の坑木等に利用する木材が必要とされました。



弘前城西藩の夜桜

当時の津軽藩にとって鉦山は重要な収入源であり、その経営に欠かせない周辺の森林資源もとても重要だったようです。その後これらの鉦山は、技術の進歩や時代等の影響を受け開発・閉山を繰り返し、長い所で1970年代まで操業されてきました。

今ではかつての大規模な鉦山集落は、その面影をわずかに残すのみとなっています。

鉦業は衰退したものの、山林と集落が近く、山中で年季の入ったママチャリとすれ違うことも多い当事務所管内の森林は、今も地域の方々の生活空間なのだ日々感じています。

今後も地域の方々の身近な森林を良好な状態に保つべく、日々業務に取り組みます。



岩屋不動尊 石燈籠は尾太鉦山の三上兵助により寄進

我が署の名所



色彩といで湯の栗駒山

栗駒国定公園の主峰栗駒山(標高1,627m)

は宮城・岩手・秋田の三県にまたがる、奥羽山脈の代表的な山の一つです。ユニーク型の活火山で岩手県では須川岳、秋田県では大日岳とも呼ばれています。各県から登山コースが通じており、山頂からの眺望は360度鳥瞰をなし、烏海山、月山、蔵王連峰、秋田駒ヶ岳、早池峰山、そして遠く太平洋が望まれ東北地方の中央部に位置した大展望地でもあります。

栗駒山南麓には「世界谷地原生花園」が存在します。栗駒山の標高669m〜707mに広がる14.34ヘクタールの細長い湿原です。

尾瀬や八幡平と並ぶ大湿原で5月のミスバシヨウから9月のヤマリンドウなど、いろいろな種類の高山植物が咲き誇り、特に湿原がオレンジ色の花に覆われ美しい景色が見られるニッコウキスゲの大群生は全国的に有名です。

また、栗原市は全域が平成27年に「栗駒ジオパーク」として日本ジオパークに認定されました。東西約38km、南北約39km、総面積804.97kmあり、高低差も海拔1,626mから海拔2mの約1,600mもあります。それぞれの特徴を活かして①栗駒山本体部、②山腹、山麓部、③丘陵地、段丘部、④平野部の4つの

ゾーンに分けられています。中でも代表的なものに、平成20年の岩手・宮城内陸地震によって生じた荒砥沢地すべりは国内最大級の規模もち、自然災害と共生がもたらす豊穡の大地の物語を実感できるサイトです。

栗駒山周辺には登山の疲れを癒やしてくれる多くの温泉や栗駒山系を水源とする清流で仕込まれた地酒も数多くありますので、ぜひ新緑、紅葉など季節を感じながら登ってみてはいかがでしょうか。

宮城県栗原市 宮城北部森林管理署管内



ニッコウキスゲとワタスゲ(世界谷地)



栗駒山中腹にそびえる千年クロベ



荒砥沢地すべり全景



紅葉に染まる栗駒山

宮城北部森林管理署

〒989-6166 宮城県大崎市古川東町5-32
TEL (0229) 22-2074 FAX (0229) 23-8624



Vol.209

●発行日/令和3年8月 ●発行/東北森林管理局 秋田市中通五丁目9-16
●東北森林管理局ホームページもぜひご覧ください <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。